

5. 現状における課題の整理

「3. 本市の現状」に基づいて、前項までの脱炭素シナリオにおける2030年度（目標年度）の温室効果ガス削減量の達成に向けた課題を整理します。

1 各部門・分野別の温室効果ガス排出状況からみる課題

- ・産業部門について、市全体に占める排出割合が高いことから、さらなる省エネ化や再エネの導入などに努める必要があります。
- ・業務部門について、省エネ設備の普及により、他の部門と比較して温室効果ガス排出量の削減率が最も大きくなっていますが、今後は事業所の気密・断熱性能の向上や太陽光発電設備の導入に努めていく必要があります。
- ・家庭部門について、省エネ家電の普及により、温室効果ガスの排出量の減少が見られますが、今後は住宅の気密・断熱性能の向上や太陽光発電設備の導入に努めていく必要があります。
- ・運輸部門について、次世代自動車やエコドライブの普及を図るとともに、できるだけ自家用車に頼らない移動に努める必要があります。
- ・農業分野について、栽培方法を工夫して温室効果ガスの排出抑制に努める必要があります。
- ・廃棄物分野について、ごみの減量化や分別の徹底に努める必要があります。

2 再エネ導入状況からみる課題

- ・2030年の削減目標達成に向けて、本市の状況を踏まえた再エネ導入量を検討した結果、主に水力発電と太陽光発電が期待できますが、水力発電は河川の流量測定や管理者と地権者の合意等により設置に時間がかかるということや、太陽光発電は本市が豪雪地帯であるため他の自治体と比べて普及していないという課題があります。
- ・地中熱の利活用について、導入ポテンシャルは高くなっていますが、利用できる施設や用途が熱需要に限られ、整備コストも高いことから、導入には課題があります。
- ・豪雪地帯という本市の地域特性を生かし、冷熱が必要となる時期に冬の間に関り積もった雪を雪氷熱として活用することを検討する必要があります。

3 市民、事業者アンケートの調査結果からみる課題

- ・地球温暖化に対する市民の考えについての回答より、多くの市民が考えている地球温暖化を食い止めるための「生活を変える意識」を具体的な行動に結び付けていく必要があります。また、行政に対して期待されている「3Rの推進」「省エネ家電の買換えや再エネ設備の導入の支援」「森林資源の保全と活用の推進」を進めていく必要があります。
- ・地球温暖化対策を進めるうえでの事業所の考えについての回答より、地球温暖化対策を推進する動機付けとして「省エネ・再エネ設備導入による、コスト削減効果の周知」を行う必要があります。また、市に期待されている「省エネ・再エネ設備導入を支援する施策」を進めていく必要があります。
- ・家庭及び事業所の地球温暖化に対する取組についての回答より、市民が実施、導入している割合の低い省エネ化の取組や再エネ設備等について、普及を進めていく必要があります。また、太陽光発電設備を導入する際の設備価格や積雪の影響についての課題に対して、「雪国における太陽光発電設備の適切な情報の周知」「太陽光発電の導入事例の周知、普及」「省エネ・再エネ設備などの導入に関する補助制度の周知」を進めていく必要があります。